

<p>学力調査等の状況</p> <p>【国語】全国平均より4.2%、都平均より6%下回っていた。答えの選択肢の言葉の意味が理解できていないために正答率が低かった。文章から必要な情報を読み取って答えを選択する問題の正答率が低かった。自分の考えを制限字数内で文章にする問題の正答率が低かった。</p> <p>【算数】全国平均より2.5%、都平均より7%下回っていた。割り算のひっ算の意味、かっこを使った式の意味、三角形の高さの認識、割合の意味、比例を用いる場合、表の読み取りの正答率が低かった。</p>
--

<p>見えてきた課題</p> <p>【国語】文章から必要な情報を読み取る力が弱い。分かりやすく絵が描かれていても、正答へのヒントになっていない。文章を丁寧に読んで、必要な情報に線を引くなど、授業でも一人一人が必要な情報を見つけるトレーニングが必要である。また、自分の考えを文章に表すことに対する抵抗感が高い。文章を書く機会を増やして、抵抗感を減らす必要がある。</p> <p>【算数】学習内容の根本的な意味を理解しないまま、公式等のやり方だけを覚えて問題を解いている児童が多く、理解度の深まりに課題がある。授業で学習内容の意味を理解しているか、小テストを行うなどして、こまめに評価しながら意味理解の重要性を児童に伝えていく必要がある。</p>
--

<p>授業をデザインする8つの取組について</p>	
見通しをもたせる導入	本時のめあてを提示する際に、視覚的に印象に残るように、ICT機器を活用したり、色チョークを使ったり、言葉を困ったりするなどの工夫をして課題への意識付けができるようにし、児童が本時で学習する内容について自分からすすんで学習に取り組む意欲を高めることができるようにする。
ICT機器の活用	実物投影機やChromebook等を活用し、学びの共有や協働制作に取り組むことができるようにする。デジタル教科書を積極的に使い、その効果的な活用法を各学年で工夫・共有する。
価値ある対話の共有	一人一人の考えを表出させる方法を複数用意し、それぞれの児童にあった形で児童が自分の考えを抵抗なく表現できるようにする。また、教師が児童の発言を認め価値付けることを積極的に行う。児童の考えを児童間で共有して、そこから話し合いを行ったりそれぞれの考えを深めたりすることができるようにする。

<p>各教科における課題を改善するための指導の重点</p>				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話しやすい学習形態、および意見交流のもち方を工夫する。 細やかなノート、作文指導を通して、正しい表記や表現が身に付くようにする。 毎週末に日記の課題を出し、文章を書く活動を習慣化する。 辞書の活用と読書活動の充実を図る。図書指導員、読み聞かせボランティアとの連携を図る。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に生かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章は声に出して読む練習をし、家庭でも行う。また、言葉一つ一つの意味を確認する。 日頃の生活経験をもとに日記を書くことから始め、分量のある作文が書けるようになる。書く表現の工夫を知る。 漢字は止め、はらい等の字形に意識させ、正確に覚えるために反復練習を行う。 皆の前で話す機会を多く設定する。小集団からスタートする等、発表形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア活動や少人数での話し合い、発表する機会を多く設定し、自分の考えを伝えやすい学習形態の工夫をする。 ノート指導や漢字学習、作文指導を通して、正しい表現方法を身に付けるようにする。 毎週末に日記を書くことを課題とし、書くことに対して慣れていくようにする。 辞書を常に使える環境にし、分からないことを辞書を使って調べる習慣をつける。 図書指導員との連携を密にとり、図書の時間の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習への動機付けを明確に行い、宿題を中心に反復学習を行う。 物語文や説明文を読むときは、文章の構成を確認してから内容の学習に進める。 作文や主張文を書く時には、スモールステップを踏み、一つ一つ書く内容や考えをまとめさせる。 自分の意見をもつこと、伝えることの大切さに価値をもたせる。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業を行い、児童が社会的な見方・考え方を働かせて課題を迫りたり解決したりできるようにする。 気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をするようにし、児童が多様な考えを認め合い、学びを深めることができるようにする。 	(中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) <ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の様子を知ること、自分と社会のつながりや、多くの人の関わりの上に学校生活や社会生活が成り立っていることを考え、感謝の気持ちをもたせる。 店活動や郵便局体験等のグループでの活動を通して、社会の一員としての自分に目を向け、主体的に関わろうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示する資料を精選し、資料から読み取りをしやすい工夫を行う。 ICT機器で映像や写真資料を効果的に掲示したり、発表時に活用したりするなど、ICT機器を効果的に使う。 単元のまとめでは、学習して分かったことを文章で表したり、説明したりする活動を取り入れる。その際、学習した社会の用語を使用させ、知識を活用する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して資料を提示し、児童の興味関心を高めたり、焦点化したりする。 ICTを活用し、調べた内容をペアやグループで共有できるようにする。 ICTを活用することで、単元を通して調べたり話し合ったりしてきた内容を簡潔に振り返られるようにし、児童が学習問題に対するまとめを自分で書けるようにする。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> 「習熟度別指導ガイドライン(改訂版)」に沿った習熟度別指導を効果的にを行い、実態に合った教材や授業展開を工夫する。 課題に対して自分の考えをもち、伝え合える学習形態を積極的に取り入れる。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に生かしたりする。 東京ベーシックドリルの診断テストを使って前学年の学習内容の理解度を見取り、放課後や夏季の算数教室で個別に補う。年度末に再度定着度を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が定着していない児童に対して個別指導を行う。(放課後算数教室・放課後個別対応等) 算数ブロックを活用し、具体的な数の操作を体験する機会を多くもつ。 問題文は図や絵、言葉、式に表などに表すことで、問題の意味を考え、理解できるようにする。 足し算・引き算・掛け算などの計算は、朝学習や家庭学習で繰り返し練習し、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導を効果的に行うために、単元が始まる前にプレテストを行い、児童が自分の理解力に応じてクラスを選べるようにしたり、教師がより適切な習熟度別のクラスへの参加をアドバイスしたりするなど、児童の実態に合わせた授業を行う。 デジタル教科書の使用を進め、視覚的な情報の伝達を重視して児童がより課題を捉えやすくする。また、「navima」を活用して個別最適化学習を進めたり、各単元のまとめ学習として自分の課題に沿った適用問題を解かせたりすることで、学習理解を深める。 放課後算数教室を活用して学習内容が定着していない児童に対して個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別のクラスの選定を効果的に行うために、単元が始まる前のプレテストをしっかり行う。授業では、問題解決への見通しを確実にもたせるために、グループごとの指導を工夫する。 授業内に、式や図で表現する活動を取り入れる。 デジタル教科書の使用をすすめる。また「navima」を活用して各単元の学習で自分の課題に沿った適用問題を解かせ、学習理解を深める。 放課後算数教室を充実させる。そのために、一人一人の課題を明確にして学習内容が定着していない児童に対して丁寧に個別指導を行い、学習内容の理解を深める。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習のパターン化を図り、予想から考察までの筋道を作って見通しをもちやすい学習活動を行う。 直接体験や観察活動のための教材教具を整備して技能や解決する力を伸ばす。 自然の事物や現象の変化について、根拠ある予想や仮説を表現できる力を伸ばす。 ICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 	<p>(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの植物や昆虫の観察、野菜の栽培等の活動を通して、動植物に対する関心を高める。 身の回りの自然や物を使って遊ぶことで、工夫して遊ぶ力を付け、自然や物に対する関心を高める。 アサガオやミニトマトなどの栽培活動を通して、植物の変化の様子を知ったり、諸感覚を使って様子を感じ取ったりする。また、記録の仕方や視点を学ぶとともに、『生命・地球』分野への意欲や基礎技能を高める。 おもちゃづくりなどを通して、風やゴムなどの動力源と動きの関係に関心をもたせることで、『物質・エネルギー』分野への意欲や基礎技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習のパターンに沿って授業を行い、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 身の回りにあるものを導入段階で提示することで、単元の学習と生活とを結び付け、学習が生活に役立つことを明示する。 ICT機器を活用して、視覚的に分かりやすい資料の提示を行う。 問題解決の力を養うために、安全に配慮しながら、意欲を高めて実験に取り組ませる。 自然の様子を体感することで、四季の変化や生き物の仕組みに関心をもたせ、自然の豊かさや生物を愛護する態度を育成する。 単元の終末では、動画教材を視聴することで、学習内容の再確認をし、観察や実験の理解の定着を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入やまとめでは、身の回りにあるものを提示し、単元の学習と生活を結び付けることで、学習が生活に役立つことを理解させる。 実験では理科への興味・関心を高めるため、実験や実体験を多く取り入れる。 自然をよく観察し、その状態や様子がどのように形成されたのかを推論・考察することで、過去と現在、未来がつながっていることや生活と強く結び付いていることを意識させる。 実験や観察の結果から考察する時間を十分にとり、論理的に考える機会を増やす。
----	--	---	---	---

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を通して、身近な人々、社会および自然との関わりに気付かせる。 年間を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分の成長を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫取りや学校探検などの体験活動と表現活動を繰り返しながら学びの質を高める。 いろいろな調べ方やまとめ方を知らせ、児童の興味が広がるようにする。 グループでの活動を取り入れ、人との関わりのなかで学ぶよさを体験させる。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の知識やポイントを明確にしたり、感想を伝え合ったりしながら、曲や演奏のよさに気付けるようにする。 授業の他、音楽集会、連合音楽会、音楽鑑賞教室などの活動を通して、音楽に親しみ楽しむ態度や豊かな心を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴き、真似して歌ったり、歌詞の内容にあった身体表現をしたり、手拍子や打楽器でリズム遊びをしたりすることで、音楽活動に対する自分なりの意図をもたせる。 鍵盤ハーモニカやキーボードの取組を通して、協働した音楽活動への楽しさを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合った表現について、友達と考えを共有し、思いや意図をもって歌えるようにする。 曲想と音楽の構造の関わりについて考えながら曲を聴いたり、気付いたことについてワークシートに記入したりする。 楽器演奏においては、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、キーボードのほか、打楽器等を使用し、多様な楽器の奏法を身につけるとともに表現の喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて楽曲を分析し、曲の特徴にふさわしい歌い方をするにはどのような表現をしたらよいか、思いや意図をもつ。 曲想を音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて自分の考えや友達の考えを共有し、深め、自分の表現に活かす。 楽器演奏においては、リコーダーや鍵盤楽器、打楽器等を使用し、表現をする喜びを味わわせる。
図画工作科	<ul style="list-style-type: none"> 体験を取り入れたり、大型映像装置やchromebookなどICT機器を活用したりする授業を行い、興味・関心がもてるように工夫する。 気付きをもとに、ペアやグループで意見交換をしながら、自分の考えを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書画カメラなどを活用して互いの作品を鑑賞する活動を積極的に取り入れる。自分の作品の造形的な面白さや楽しさなどを感じ取るとともに、友達の作品のよさから学びを深める。 作業工程や道具の使い方について丁寧に説明をし、基本的な使い方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に、題材の大局的な流れや概要を伝えるとともに、本時の流れや内容を伝え、活動の見通しをもたせる。 自他の作品のよさや違いについて、自分の意見を発表したり、題材終末にワークシートに記述したりする活動を充実させる。 実物投影機や大型テレビを活用し、制作の実演を行ったり、児童が発表や鑑賞をする際に、視覚的に認識しやすいように活用したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に、題材の大局的な流れや概要を伝えるとともに、本時の流れや内容を伝え、活動の見通しをもたせる。 題材の導入では、実物投影機を活用して適宜参考作品を例示し、色や形などの特徴を児童がじっくり鑑賞することができるようにする。 実演などの指導に当たっては、実物投影機や大型テレビを積極的に活用し、手元の動きなどを分かりやすく伝える。 Chromebookを活用した共同製作を取り入れる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活との関連を意識させた課題や導入を工夫し、実践的、体験的な活動に取り組ませることで、日常生活に活かしていることとする態度を養う。 ICT機器を活用して視覚的に捉えられるような教材を工夫し、見通しをもって活動させる。個別指導の時間やグループで教え合う機会を充実させ、技能の向上と定着を図る。 			<ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭、衣食住など、日常生活について基礎的な理解ができ、それに関わる技能を身に付けられるようにする。 ICT機器を活用して児童が見通しをもって主体的に実習に取り組めるようにする。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を踏まえ、体の柔らかさと巧みな動きを高めることに重点を置き、学年間で内容を共有しながら授業の中で補う。 授業形態を整理し、安全かつ安心した運動ができるようにする。 持久走と長縄を学校全体で実施し、十分に実践できる期間を設定し、体力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容を工夫しながら運動量を確保し、基本的な動き方を身に付けさせる。友達の様子に気付いたり、自分の考えを他者に伝えたりする場を設定する。 きまりを守ることや安全に活動することを意識させ、健康で安全に留意した運動をする態度を養う。 持久走や長縄に楽しく参加できるように声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の習得状況に応じた練習の場を工夫する。 ICT機器を活用して模範を示したり、児童が自分の運動の様子について観察したりできるようにする。 持久力向上のための取り組みについて粘り強く取り組めるよう声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動の課題を見付け、自己や仲間の考えたことを伝える力を養う。 きまりを守り、場や用具の安全に留意して自己の能力を高める態度を養う。 持久力を高める活動を取り入れ、運動量を確保する。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

<p>外国語科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話す、聞く、読む、書くの4技能を習得する活動を十分に入れ、バランスよく学力が身に付くようにする。 ・デジタル教科書などICT機器を効果的に取り入れ、理解につなげたり、発表時に活かしたりする。 ・近隣大学や海外現地校との外国語交流を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて実践できる技能を身に付けさせる。 ・英語を使う必然性のある場面設定をし、状況に応じて必要な情報や考えを表現できるようにする。
-------------	---	--	--	---

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考える道徳を目指し、ねらいとする道徳的価値について児童が自分との関わりとして捉え、自己理解を深めていけるようにする。 ・教育活動全体を通して具体的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を効果的に読み聞かせたり、紙芝居等、場面絵の提示や導入方法を工夫したりして、児童が学習する価値項目を理解しやすくする。 ・ねらいとする道徳的価値について自分との関わりとして捉えることができるようにするとともに、総合的に道徳の心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の見方や考え方を大切にしながら他者の考えを受容し、認められることを目指す。 ・それぞれの価値項目がねらうところを的確にとらえ、総合的に道徳心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの内容項目の視点の関連性・発展性を意識し、児童や学級の実態に応じて適切に指導する。 ・学年ごとに指導の重点を設定し、教育活動全体を通じて具体的な指導を行う。
<p>外国語活動 ・英語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTやMEPSと連携し、効果的で楽しい指導を行う。 ・聞く活動を十分に入れ、自然に英語の音が身に付くようにしたり、ペアやグループでの学習やゲーム形式の活動など、自然な形で発話する機会を増やしたりして、コミュニケーションを楽しもうとする態度を養う。 ・1時間の学習の流れを具体的に示す研修を行い、HRT主導の授業を計画的に実践する。 ・近隣大学や海外現地校との外国語交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川大学の学生と連携し、児童が興味関心をもつ学習内容を考え、歌や絵本など楽しみながら活動できる授業を展開する。 ・歌や単語の反復練習、絵本の読み聞かせなど聴覚や視覚を通して、外国語に触れ、すすんで英語を話そうとする態度を養う。 ・1時間の学習の中で、どの活動をするか(Song Time/Activity Time/Story Time等)の声掛けを行い、学習内容の流れが分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インプットを大切に、聞く活動を十分に確保する。 ・ALTやMEPSとの連携を図り、それぞれの役割を明確にしたうえで授業に臨む。 ・話す活動では、話すことへの必要感を大切に、児童が話すことに意欲的に取り組めるようにする。 ・アクティビティの充実を図り、英語に慣れ親しませることによって高学年の外国語科の学習へスムーズに移行できるようにする。 	
<p>総合的な学習の時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科と関連付けて、体験的な活動を通して、より学習したことの理解が深められるように効果的な計画を立てる。 ・プログラミング教育の実施により、論理的思考を育成する。実践事例を参考に、小学校6年間を通した系統的な計画を立て、創意工夫したプログラミング教育を目指し各教科等で授業実践を行う。 ・各学年の発達段階を考慮し、飼育・栽培活動を計画的に行い、勤労生産の喜びや郷土への愛着を培う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や生活経験と結び付けながら、様々な事象に対して見方や考え方が豊かになるようにする。そのために、事前学習から体験、振り返りまでを一つのサイクルとし、内容の充実を目指す。 ・物事に対して論理的に考えられるようにプログラミング教育の充実を図る。トライアンドエラーを大切に、児童が考える時間を十分に確保する。 ・地域の人達の協力を得ながら取り組む体験的な活動を充実させ、自分たちが日頃から支えられていることに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を計画的に実施し、体験的な活動を軸に学びを進める。 ・Chromebookを使い、主体的な学びや協働的な学びの機会を積み重ねる。 ・キャリアパスポートを活用し、学びを系統的に記録できるようにする。 ・地域の人材を活用したキャリア教育を充実させ、自身の将来や働くことへの興味・関心を高める。
<p>特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、たてわり班活動、クラブ活動、委員会活動等を通して、学級や学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法や自分の実践目標について、決定する機会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を軸に活動を進める。 ・当番活動、係活動、話し合い活動などの学級活動の取り組みを通して、豊かで望ましい人間関係の育成を図る。 ・たてわり班活動をとって、異学年交流の楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動において、果たすべき役割を自覚し、自分事として課題に取り組み、よりよい人間関係の構築につながるような計画・指導を行う。 ・学級や学校がよりよくなるための工夫がされるよう、課題を明確にし、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・クラブ活動やたてわり班活動では、異学年交流のよさを感じ、よりよい学校生活になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動、係活動、話し合い活動などの取り組みを通し、豊かな人間関係の醸成を図る。(学級活動) ・学校生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を決定する機会を通し、主体性を育む。(委員会活動) ・異年齢の児童同士で協力し、集団活動の計画などを立て、自主的実践的に取り組むことを通して個性の伸長を図る。(クラブ活動、たてわり班活動) ・学年児童で協力し、体験的な活動を通し、集団への所属感連帯感を深める。(学校行事)